

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス仁(めくみ)		令和7年 12月 22日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		大人数の場合は、2部屋利用しプログラムを実施	プログラム開発
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準は満たしている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	利用対象児を知的障害児としているので、玄関がバリアフリーになっていない	玄関改修費用が捻出できれば改修を行う予定
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		製作、学習、机上のゲームの部屋と体を動かせる部屋及びキッチン、相談室、静養室、カームルームを設けている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		カームルームを用意している	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		職員自ら自己研修計画を作成し、年度末に管理者による評価を行っている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的にアンケートを実施している	保護者を組織
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・朝礼にて意見交換を行っている ・月1回の職員会議において、業務改善について議題に挙げ協議している	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後、検討する
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		確保できている	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		適切に作成している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当者会で検討している	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		担当者会で評価している	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		実施している	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		実施している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員全員で立案している	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・行っている ・季節に応じたプログラムや利用児によるプログラム決定などマンネリ化しないようにしている	

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼で行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		共有出来ている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・利用児の様子や変化(体調急変時等)をメモに取り何かあった場合は、職員間ですぐに共有するようにしている ・体調急変時における対応マニュアルも整備している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		適切に行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		適切に行っている	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・毎月のプログラムや長期休み期間において、こどもたちの話し合いによりプログラムを決めている ・行きたい場所の経費(交通費、入館料、その他の費用)と上限の費用額等を利用児たちで決定できるように支援している	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者、児童発達管理責任者が参画している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	学校、教育委員会、相談支援事業所との連携はできている	障害福祉関係事業者や教育機関との連携・協働はできているが、医療機関については協働までには至っていないので、今後、関係を密にしてい
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		○	市によっては、下校時間を教えてくれないので、保護者から情報提供を受けている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	・連携はできていない ・就学前の情報は、相談支援事業所からに頼っている	新一年生で利用予定の利用児については、所属していた団体に対して情報の提供を求めている
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	開所2年目の事業所であり、まだ、高校を卒業する利用児がいないが、引継ぎシート等は準備している	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	未実施	今後、検討する
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		交流プログラムを年2回計画しチラシを配布しているが、参加者は少ない	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		毎回、参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時にこどもの様子を伝え、その際に成長した部分や普段と違ったことも伝えるようにしている	今後、・WEBを活用していきたい
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	障害福祉サービス等の研修以外の情報提供は行っているが、きょうだい児支援を含めた家族支援は行っていない	検討していく
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		一通りの説明を契約時に行っているが、十分とは言えない部分もある(保護者の理解の違いによる)	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		家族の意向は、連絡帳を通じたり、何かあれば連絡してもらったりと話し合える機会を設けている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		説明が不十分と思われる保護者の方もあるので、より丁寧な説明を心がけたい	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		個別に相談日を設け行っている	今後は、全員に対して相談日を設けていきたい

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	・父母会を組織できていない ・きょうだい児支援を行っていない	父母会の組織は難しいが、きょうだい児支援は行いたい
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応マニュアルを整備し、苦情に関して迅速に対応している	見直しを行う
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HPに掲載している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報保護規程を整備している ・職員やボランティアに対して、誓約書を交わしている	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用児特有のサインを共有している	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		事業所の堀のアートイベントや焼き芋会を実施した	継続していく
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		それぞれのマニュアルを策定し、見直しも行い避難訓練も実施している	保護者への周知までには至っていないので、今後、保護者への周知を図っていく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを作成し、避難訓練も実施している	今後、避難訓練に関しては地域住民と合同で開催したい
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・てんかん対応マニュアルを策定し、見直しも行っている ・てんかん重積状態になる利用児に対して、個別のマニュアルも策定している	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	医師の指示書はなく、保護者からの情報のみである	保護者の協力のもと、医師の指示書を準備したい
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○	利用児の安全・安心に心がけた支援は行っているが、安全計画の策定には至っていない	安全計画を策定する
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	・利用児の安全・安心に心がけた支援は行っているが、安全計画の策定には至っていない ・災害時における利用児の引き渡しについての仕組みはある	安全計画の策定と家族への周知を図りたい
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・事故防止に関する指針の中に、ヒヤリハットを明記している ・ヒヤリハット発生時には、報告、分析、評価、対応と一連の仕組みに沿って対応している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・ヒヤリハット防止マニュアルを策定している ・年1回の職員による自己チェックを行っている ・外部研修を受講している	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・身体拘束等の適正化のための指針を策定している ・身体拘束適正化委員会を組織している ・外部研修を受講している	